

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：保健予防費 目：保健予防諸費

事業名 ハンセン病対策推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 感染症対策推進課 感染症対策係 電話番号：058-272-1111(内3352)

E-mail : c11237@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 8,346 千円 (前年度予算額： 8,346 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
前年度	8,346	0	0	0	0	0	0	0	8,346
要求額	8,346	0	0	0	0	0	0	0	8,346
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

- 平成8年4月「らい予防法」廃止、13年5月11日熊本地裁判決。
- 国において、ハンセン病療養所入所者等の名誉回復のための措置を講ずることを表明。県議会（平成13年6月）においても、ハンセン病についての幅広い啓発活動等、積極的な取組みについて要望。
- 県出身入所者は、令和7年9月現在7人、平均年齢88.4歳。
- 入所者は、今なお、社会の差別・偏見に苦しみ、療養所生活を余儀なくされており、高齢化する中でふるさと岐阜への思い入れが強い。

(2) 事業内容

- ハンセン病療養所入所者里帰り事業（2,960千円）
里帰り、墓参り等一時帰省、土産物送付
- ハンセン病療養所入所者等支援事業（4,772千円）
ボランティアネットワークの運営、ボランティアによるハンセン病療養所の訪問及び交流会、社会復帰支援
- ハンセン病療養所入所者等人権回復普及啓発事業（614千円）
講演会の開催、県内高等学校への副読本の配布

(3) 県負担・補助率の考え方

・県出身者への支援及び県民への啓発等を実施するため、全額県負担。

(4) 類似事業の有無

なし

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	41	講演会講師報償費
旅費	492	療養所訪問交通費等
需用費	591	消耗品、印刷製本費等
役務費	284	印刷物郵送料等
委託料	6,928	入所者里帰り事業等委託費
その他	10	パネルレンタル料等
合計	8,346	

決定額の考え方

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
- ・県民がハンセン病による偏見・差別の実態を理解し、ハンセン病に関して正しい知識を持つことにより、療養所入所者等の名誉回復を図る。
- ・入所者のふるさと岐阜への里帰り、県民との交流を支援し、故郷との絆を深め、入所者の日常生活の質の向上と福祉の増進を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

事業内容から達成すべき目標値の設定にはそぐわない。

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・入所者の手記等を掲載した「副読本」の配布（県内の高校生等へ） ・パネル展 R4.6.20～6.26（OKBふれあい会館） ・社会福祉協議会ボランティアによる土産物送付事業など支援事業を推進
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンセン病療養所を訪問 ・入所者の手記等を掲載した「副読本」の配布（県内の高校生等へ） ・パネル展 R5.6.16～6.22（岐阜県図書館） ・社会福祉協議会ボランティアによる土産物送付事業など支援事業を推進
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンセン病療養所を訪問 ・入所者の手記等を掲載した「副読本」の配布（県内の高校生等へ） ・パネル展 R6.6.17～6.23（OKBふれあい会館） ・社会福祉協議会ボランティアによる土産物送付事業など支援事業を推進
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 2	ハンセン病療養所施設の入所者が高齢化する中、県民がハンセン病による偏見・差別の実態を理解し、また、ハンセン病に関する正しい知識を持つことにより、入所者の名誉と故郷との絆を回復することは、早急の課題である。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	(評価) 2 当事業に対する入所者の満足度は良好である。 また、講演会や副読本配付等のアンケート結果によれば、ハンセン病の歴史や問題を理解し、人権の重要性を考えるきっかけになっている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	(評価) 1 ハンセン病療養所施設の入所者の要望に応えながら、各事業の見直しを継続的に実施するなど、効率的な事業を行っている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

ハンセン病療養所入所者の高齢化が進み、介護が必要な入所者も増加する中、里帰りを実施する際のサポート体制を充実していく必要がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
引き続き、入所者の支援とその名誉回復等の取り組みを継続する。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	